

• Q S 8-1 割込み優先権のある混合入力トラヒックモデルの解析 (住田修一・武蔵野通研)

ポアソン呼が割込み優先権をもつ  $M_1, GI_2/M_1, M_2/1$  モデルの解析と数値例の報告

• Q S 8-2 Conservation law について  
(宮沢政清・東京理科大)

待ち行列理論における Conservation law (保存則) の定義が文献ごとに異なることの指摘と新しい定義の提案, およびその定義による invariance relation の説明

## ■経営研究■ (研究グループ)

### • 第8回

日時: 11月5日(土) 14:00~17:00 場所: 東京都勤労福祉会館

テーマ: 「ローカルエリア・ネットワークの課題」

講師: 梨山 修 (経営コンサルタント・産能大講師)

コモン・キャリアーに専念していた電々公社が, 今回

ひとつの飛躍をして「LAN: ローカル・エリア・ネットワーク」に積極的に進出することになった。そこで、コミュニケーション・ネットワーク全体とLANとの関係や界面をいかにうまくこなして、情報化時代の要請にこたえるかをマイクロとマクロ、そして、現在と将来にわたって展望し解説された。

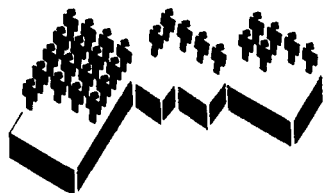
### • 第9回

日時: 12月3日(土) 14:00~17:00 場所: 東京都勤労福祉会館

テーマ: 「経営実践報告」

講師: 村沢与四郎 (中電電気産業㈱社長)

アセンブルを主体とする大手企業と部品やコンポーネントの専門・専業メーカーとのそれぞれの役割りやあり方や相互関係の現状を概観し、その問題点を一企業の社長という立場から、そして日本の経済全体の枠組のなかで具体的に、かつ前向きな視点でとらえられ、さらに将来のよりよき経済への有効な提言の数々が開陳され、また現実の企業活動のORにも言及された。



## 会員近況

(元 日新製鋼) 山本 昌

呉製鉄所(工程部長)のとき、権藤 元氏より「広島でのOR学会で何か発表を」と希望があったので、日ごろ考えていたことをまとめて「ある人工語の試み」なる小冊子を印刷して出席の皆様にお配りして発表したのが、そもその始まりです。その後阪神製造所(副所長)、徳山(モーターボート製造会社の社長)と忙しく、そのままになっていたのを退職を機会にまとめて「言語工学(パジョロール言語)」として希望者に配布しました。それに対していろいろご意見がよせられました。

まず江副 力氏より「右脳を使ったものにしては……」と参考書まで送っていただきました。そこで気づいたことは、言語をある連想しやすい体系に組むことは、同時に一定の方法【誘撃法(OR誌)第19巻(1975, 12)参照】で表意文字化できるということでした。

次は高岡市の宮本一郎氏より「人工語はちょっとした

小説が訳せるぐらいでなければ……」との忠告でした。それには常用4000語程度は全部単語として含まれている必要があります。この作業は真に重労働であって長期間を必要としましたが、無職である暇が幸いして、全部トレースすることができました。これによって充足性が保証できました。また国澤清典先生から習った情報理論のもとに文字が常用漢字と同数の2000字程度におさまるよう工夫しました。以上のようにしてできあがったのがこの「解析言語」です。使われている直感文字は表意文字であると同時に表音文字でもあります。ここに会員の方々にお礼申し上げる次第です。さて発展途上国の人々が日本語を学ぶことは大変なことです。またわれわれがその国の言葉を習うことも大変なことです。英語などによる方法は彼らが文化的に植民地の立場から脱出できないことにつながります。そこで、この簡単に習得できる「解析言語」によって、これらを解決しようというのが第1のねらいです。

次にこの「解析言語」はコンピュータのソフトウェアを開発してゆくときに、いろいろなヒントを教えてくださいと確信しております。ぜひ一読して利用されることをおすすめいたします。本書をご希望の方は、送料250円(切手)をそえて直接下記にお申し込みください。

〒565 吹田市千里山西1丁目26-15 山本 昌

日本大学理工学部  
海洋建築工学科 堀田健治

私が所属している学科は「海洋建築工学科」というユニークな名称がつけられているが、これは土木、建築、造船、海洋工学の知識を修得し、あわせてその境界領域に新しい学問大系の確立をめざして設置されたものである。したがってその範囲は広く、海域と陸域の総合利用と保全をはかるための周辺工学ともいうべきもので、海洋構造物、海上都市、水産・エネルギー施設等のソフトとハードの面に研究が注がれている。最近私の研究室のワークの1つに産業連関分析を用いて沖合人工島の建設

が地元社会におよぼす、経済波及効果の分析がある。現在、官民それぞれの立場で沖合人工島の調査研究がなされているが、よりよい実現をめざすためには建設されることによる地域経済、社会の問題は無視しえなく、むしろ予測された効果を計画にフィードバックさせながらより計画の質を高めてゆくべきであるとの認識から研究が始まったものである。分析は建設地域によるちがいが、材料、工法（埋立式、浮体式）等によるちがいを定量的に推定することが目的の1つであるが、これまでに興味深い結果も得られたため別の機会に発表し、ご意見やご批評をいただきたいと思っています。

### 会合記録

( ) 内は人数

三学会連合大会打合せ（日本OR学会・日本経営工学会・日本品質管理学会） 12月5日（月）（11）  
庶務幹事会 12月5日（月）（8）

モニター委員会 12月7日（水）（1）  
編集委員会（OR誌） 12月8日（木）（7）  
OR事典編集委員会 12月10日（土）（6）  
国際委員会 12月12日（月）（5）  
研究普及委員会 12月14日（水）（8）  
編集委員会（論文誌） 12月19日（月）（3）  
IAOR委員会 12月20日（火）（5）

**編集後記**▶高度情報社会、ニューメディア、OA、ホームオートメーション、昨年まではまだ何となく地に着かない浮いた感じの言葉が、今年は実現性のありそうな身近なものに聞こえてきます。これはマスコミのせいだけではないようです。ビジネスに、そして生活場面に、まだ小さいながらも確実に新しい動きとして見えるからです。しかもそれらの動きは、かつての日本を支えてきたいわゆる基幹部分（産業）ではなく、より人々（生活者）の目にふれる身近な場面で起きているのが特徴なのです。これからのORの活用と新たな展開も、今までにすでに定着した部分に加えて、これら新たな分野での期待が大きいものと思われまます▶これだけ社会が変化すれ

ばOR教育も実践も、その考え方、方法もおおのずから従来とは違ってきて当然でしょう。もちろん特に教育には基礎的な部分も必要なわけですから、時代の流れにすべてが振り回されるのも困ります▶魅力あるOR誌づくりというのが当編集委員会の使命ですので、新・旧、基礎・応用と記事の使い分けの工夫が必要となってきます。毎月の特集も、ORの手法や利用分野で組む場合と、新年号のようにORの現状把握、あるいはあり方に関するようなテーマで組む場合の両者で編集を進めていきたいと考えています。ちなみに3月号は「トラフィックのOR」、4月号は「大学のOR教育」です。（J）

## オペレーションズ・リサーチ

昭和59年2月号 第29巻（新シリーズ第9巻）2号 通巻278号  
代表者 横山勝義  
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
（電話 03-815-3351~2）〒113  
編集人 牧野都治  
発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円（郵送料含）年間予約購読料 9800円（郵送料含）

本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548）、日経弘報社（563-2241）へ